

WMデジタルプラットフォームを 活用したWMビジネスの高度化

2022年2月16日

1. Our vision for MUFG Wealth Management

これからの時代、お客さまが金融機関に期待することは、人生という資産を「ゆたか」にすること、そして蓄積した富を次世代に「まもり・つなぎ・ふやす」ことだろう。

ならば、私たちはお客さまにとって、今・そして将来を託せるパートナーを目指そうではないか。

そのために私たちは、お客さまの人生のゴールをしっかりと理解し、お客さまがゴールに到達するためにプロフェッショナルなアドバイスをしていく。

- お客さまをリスペクトし、人生・ファミリー・会社の歴史、将来（夢）を理解する
- お客さまのゴールから逆算し、お客さまが気付いていない課題に目を向ける
- プロダクトアウトから脱却し、お客さまの立場にたってアドバイスする
- 資産を限定的にとらえずに、お客さまの人生の全てが資産という認識をもつ
- お客さまを包括的にサポートするために、業態の壁、部門の壁を乗り越える

このようなアプローチを私たちは「MUFGのゴールベースアプローチ」と呼び、目指す姿とする。

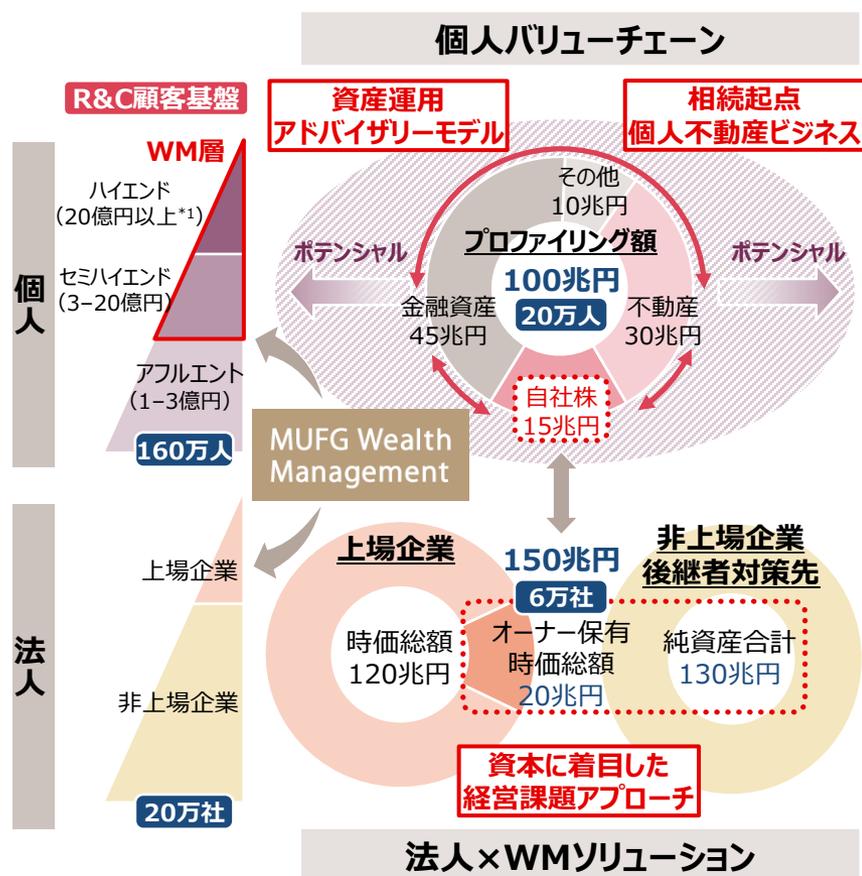
私たちはプロフェッショナルとして、お客さまに選んでいただける存在になれているのか、常に自問自答し続けていこう。 Why MUFG? Why You?

ウェルスマネジメントとは、これまで金融機関が果たしてきた社会的インフラとしての使命が時代の移り変わりに合わせて昇華したものであり、私たちはこの新たな使命に関われることに誇りをもちたい。

2. R&Cビジネスの全体像とWMビジネス外観

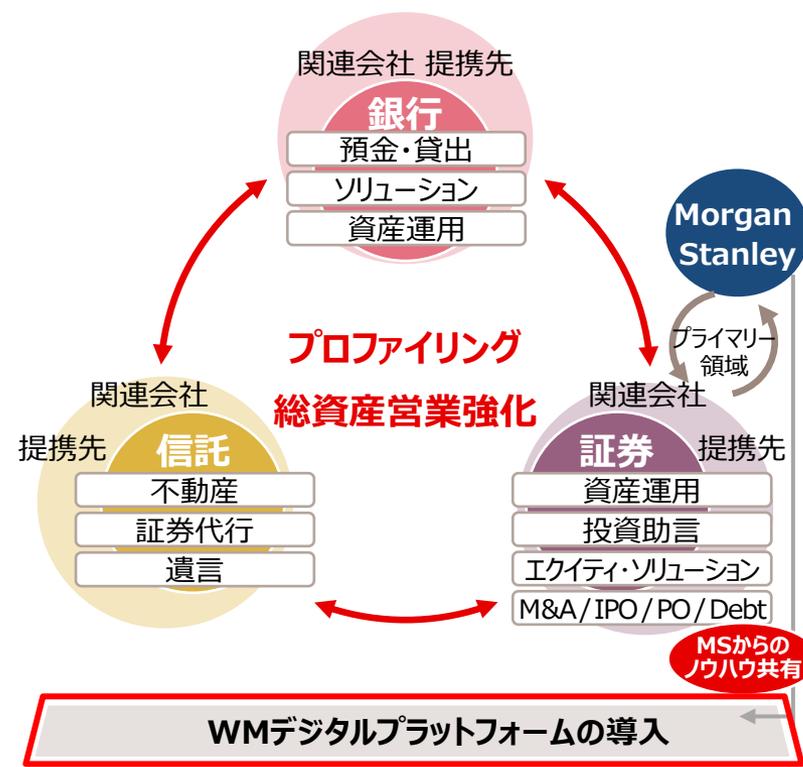
マーケット・オポチュニティ

- 個人プロファイリング資産100兆円に対するコンサルティング（富裕層全体では更にポテンシャル有り／23年度130兆円）
- 企業オーナーが保有する資本価値150兆円



MUFG総資産営業モデル

- お客さまの総資産に着目し、資本戦略や承継、不動産、資産運用ニーズ等の根源的課題にアプローチ
- グループ総合力により、バリューチェーンビジネスを追求。クロス取引を拡大



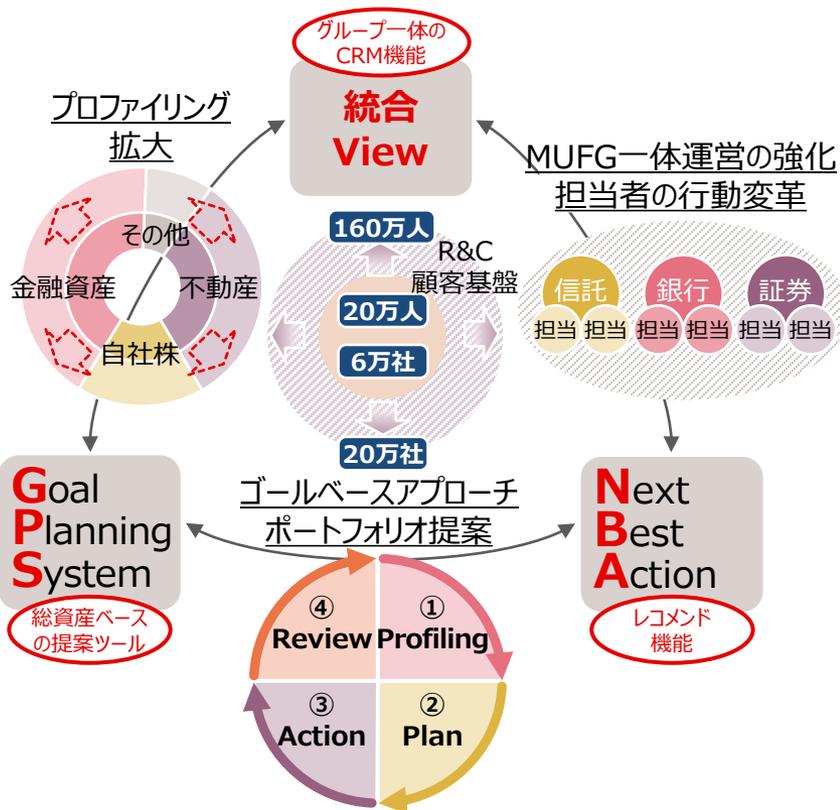
*1 把握資産基準（保有金融資産金額に応じた別基準あり）

3. WMデジタルプラットフォーム ①

デジタルシフト (WMデジタルプラットフォーム)

- デジタルプラットフォーム活用を通じて、ゴールベースアプローチに基づいた総資産ベースのポートフォリオ提案を実現

■ WMデジタルプラットフォーム MSからのノウハウ共有



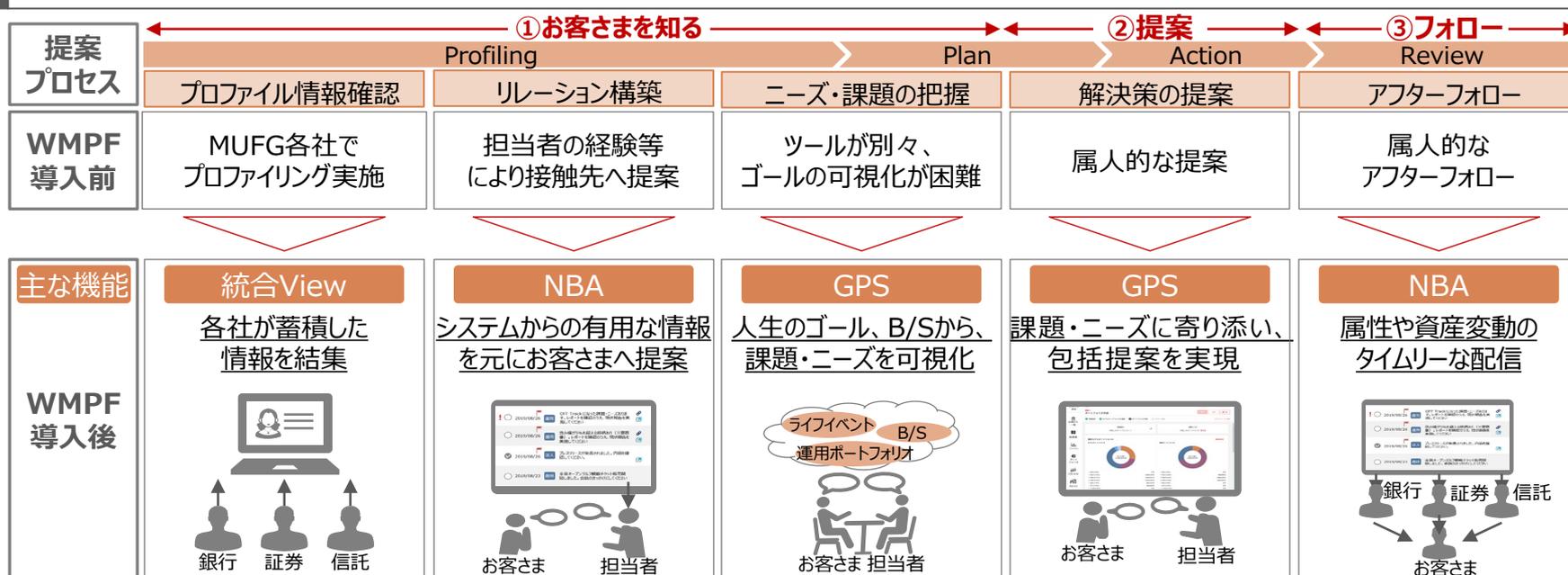
システム	機能の概要
統合 View	<p>MUFGの顧客情報を一覧表示</p> <ul style="list-style-type: none"> MUFG各社の情報共有 様々な切り口の顧客リスト作成・抽出
NBA	<p>ルールベース^{*1}、アナリティクスベースのお客さまニーズの予測・配信</p> <ul style="list-style-type: none"> お客さまのニーズ予測や市況変化に応じたレコメンドをタイムリーに担当者へ配信 関係構築、ニーズ発掘、アフターフォローに繋がるレコメンドを担当者へ配信
GPS	<p>実態把握・ポートフォリオ提案・モニタリング</p> <ul style="list-style-type: none"> バランスシートから総資産に対する課題・ニーズを把握し、資産運用や資産承継の提案を支援 ゴール実現に向けたポートフォリオを構築、共有 GMAP^{*2}等を活用したサービス提供

*1 一定のサイクルで発生するイベントや特定の取引等を、レコメンドの発信条件としたもの

*2 Global Macro & Asset allocation Perspectives. MUFG WMとしての公式な市場見通し・投資見解

4. WMデジタルプラットフォーム ②

提案活動のイメージ



試行好事例

銀行	名古屋営業部	<ul style="list-style-type: none"> 不動産有効活用の効果を資産対策シミュレーションで視覚化 追加対策として保険申込を前向き検討
証券	横浜西口	<ul style="list-style-type: none"> MUFG各社でお預かりする資産を把握した運用提案 総資産全体を踏まえた提案と好評価
信託	池袋	<ul style="list-style-type: none"> 資産承継シミュレーションで二次相続時の対策を提案 相続対策として不動産ニーズに加え、姉妹の遺言ニーズも顕在化

今後の展開



ディスクレーマー

本資料には、株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ（以下「当社」という）およびそのグループ会社（以下「当グループ」という）に関連する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述が含まれています。これらは、当社が現在入手している情報に基づく、本資料の作成時点における予測等を基礎として記載されています。また、これらの記述のためには、一定の前提（仮定）を使用しています。これらの記述または前提（仮定）は主観的なものであり、将来において不正確であることが判明したり、将来実現しない可能性があります。このような事態の原因となりうる不確実性やリスクは多数ありますが、これらに関する追加情報については、当社の決算短信、有価証券報告書、統合報告書、ディスクロージャー誌、アニュアルレポートをご参照下さい。なお、本資料における将来情報に関する記述は、上記のとおり本資料の日付（またはそこに別途明記された日付）時点のものであり、当社は、それらの情報を最新のものに随時更新するという義務も方針も有しておりません。また、本資料に記載されている当社ないし当グループ以外の企業等にかかわる情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性・適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、また、これを保証するものではありません。なお、本資料における当グループに係る財務情報は、別途記載のない限り、日本会計基準ベースの数値（本邦の管理会計基準を含む）を使用しています。日本会計基準と、米国会計基準は重要な点で違いがあります。日本会計基準と米国会計基準、その他会計基準の違いおよび財務情報に与える影響については、専門家にお問い合わせ下さい。また、本資料は、米国外で発行されるものであり、米国内に居住する個人の方を対象としたものではありません。

本資料における計数・表記の定義

持株：	三菱UFJフィナンシャル・グループ
銀行：	三菱UFJ銀行
信託：	三菱UFJ信託銀行
証券：	三菱UFJ証券ホールディングス
MUMSS：	三菱UFJモルガン・スタンレー証券
R&C：	法人・リテール事業本部